

ついでにお母の仲間

History

学校に行きたいけれどどうしても行けない子供。家から出られない自分を責め続ける若者。育て方が悪かったと悩む親。横須賀の商店街の一角に、そのような子供や若者、保護者が安心して集い、話し合え、学べる安らぎの「居場所」がある。

NPO法人(特定非営利活動法人)「アンガージュマン・よこすか」(小柳良代表)は二〇〇四年四月から、横須賀市上町の上町商盛会商店街で、空き店舗を利用して不登校や引きこもりの子供や若者の支援施設を運営している。

社会貢献を通して地域の活性化を図ろうと、同商店街振興組合(宮原茂理事長)が空き店舗を借り上げ、アンガージュマンと連携。支援施設では、教員の資格を持ったスタッフやカウンセラーらが子供たちと触れ合う。心のケアをするフリースペース事業や学習サポート事業、

アンガージュマン・よこすか(横須賀市)

不登校に安らぎの場

として、自由に使ってもらおうと心掛けている。学習サポート事業でもスタッフがその子供に合った内容で懇切丁寧に教えています」と語る。

昨年十一月から、支援施設に集う引きこもりの若者らの社会参加のきっかけになればと、探算は二の次にして、買い物代行や家事手伝いのサービスを始めた。

買い物代行は、体の調子が悪い人や忙しくて時間の余裕のない人から電話注文を受け、本人に代わって商盛会で買い物し、商品を自宅まで届ける。家事手伝いは、電話などで依頼を受けた利用者宅に出張して、庭の草刈り、大掃除、通院補助、犬の散歩などを手伝う。

昨年十二月の大みそか。引きこもりに悩み、支援施設を何度も訪れている三十代の男性が家事手伝いサービスで、酒の棚卸しに取り

保護者を対象にした自助グループ活動などを行っている。

広さ約百三十平方メートルの部屋。パソコンやテレビ、漫画がそろった本棚などが備えられている。訪れた子供や若者はパソコンで絵を描いたり、漫画を読んだり、ギターを演奏したり…。思い思いのペースで過ごす。マンツーマンでスタッフに勉強を教わる子供も。

小柳代表は「自分の時間と場所

組んだ。

人との対話が得意ではない。店の主人らに身内のように話しかけられ、初めは戸惑ったという。しかし、慣れていくうちに会話は弾んだ。「問いかけにきちんと応じることができてうれしかった。自分に対する自信にもなった」と笑顔で振り返る。

小柳代表は「支援施設に訪れる子供や若者にとって一番大切なのはコミュニケーションを持つこと。できるだけ多くの人に会わせて、コミュニケーションの機会を提供したい。買い物代行や家事手伝いがそれにつながれば」と話している。(石曽根 剛)

支援施設は、京急線横須賀中央駅から徒歩約10分。オープンして約10カ月が過ぎ、会員は134家族に増えた。小柳代表は「支援施設の」存在をもっとたくさんの人に知ってほしい。悩み、苦しんでいる子供たちにどんどん活用してもらいたい」と語る。買い物代行は無料、家事手伝いは原則、時給800円で行っている。両サービスを「お届け便・孫の手サービス」と名付け、利用を呼び掛けている。

問い合わせは、アンガージュマン・よこすか 046(801)7881。

不登校の子供たちの支援などに取り組む「アンガージュマン・よこすか」

